

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	建築設計Ⅳ Architectural Design Ⅳ						
科目区分	専門科目	単位数	3単位	開講時期	3年次後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース) 必修科目(建築コース) 選択科目(デザインコース)						
担当者	井原 徹 Tohru IHARA、井上 聡 Satoru INOUE 清原昌洋 Masayuki KIYOHARA						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模用途の建築のデザインを行い技術的検討を加えることができる。(B6) ・建築の条件と敷地の条件を的確に把握できる。(B6) ・コンセプトの立案と設計への適用ができる。(B6) ・建築の全体と関係付けて細部のデザインを行うことができる。(B6) ・設計のプレゼンテーションを行うことができる。(A7,B6) 						
日程と内容	<p>第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、設計のまとめ方等</p> <p>第2回：課題-1「大規模文化施設」課題の理解。資料配布</p> <p>第3回：エスキス-敷地条件の理解・建築と条件の確認と立案</p> <p>第4回：エスキス-機能条件の理解・一般ならびにサービス動線の処理と機能構成による立案</p> <p>第5回：エスキス-構造計画と設備計画による立案。エスキスの提出</p> <p>第6回：立体構成-断面による空間構成の確認とデザインコンセプトのまとめ</p> <p>第7回：図面提出・プレゼンテーションならびに講評</p> <p>第8回：課題-2「複合多目的施設」課題の説明。資料収集ならびに敷地調査の方法</p> <p>第9回：エスキス-敷地条件の理解・建築と条件の確認と立案</p> <p>第10回：エスキス-機能条件の理解・動線処理と機能構成による立案</p> <p>第11回：エスキス-構造計画と設備計画による立案。エスキスの提出</p> <p>第12回：立体構成-スタディ模型による空間構成の検討</p> <p>第13回：立体構成-断面図による空間構成の検討</p> <p>第14回：計画ならびにデザインコンセプトのまとめ</p> <p>第15回：図面提出・プレゼンテーションならびに講評</p>						
成績評価基準	定期試験 臨時試験 報告書・レポート 課題 演習		60%	実技 部外評価 プレゼンテーション ポートフォリオ 計		10% 30% 100%	
授業到達目標の達成度	中規模ホテルから大空間を持つオーデトリウムの設計課題とし実査の敷地を選び、現地確認から基本方針の設定まで検討することが出来た(90%)。 大空間の設計に到っては空間構成から構造的検討が必要になる。鉄筋コンクリートラーメン構造は理解出来ているが、鉄骨が入ると構造規模などの知識が不足するため設計図面になると説得力に欠ける。(80%) 狭小な敷地に取り組み都市や地域的視点に立って計画が出来ている。敷地と建物が一体であるという理解が少な						
反省点	建築設計という理解ならびに認識が建物だけに偏る傾向がある。そのため、土地の活の意識が乏しい学生や、逆にデザイン計の学生では屋外空間のみに火設計意識が偏るなどの機構が見られる。なお、学生を三班で和気課題は二つのために1人の教員には指導してもらえない学生もあるそのため、学生間の不満が出ていると思われる						
来年度の計画	建築を土地とたてたものを一体的なものと考え都市や地域の状況を把握出来るように、現実の敷地の調査ならびに分析に少し時間を増やしていく。教員三名で詳細な指導を試みているが教員間の指導ポイントが若干齟齬があるので共通指導項目を手学生にも提示して指導するよていである。						
授業評価アンケートに対するコメント	学生の興味の対象が多様であるが、敷地と建物が一体なって初めて建築となる。そのため、建物の形だけ、屋外のみなどでは評価できない。学生の中には模型を[頑張ったから評価してほしいなどという要望があるが、建築の設計でそのような建築を作れば本来的な機能を失うなど建築が成立しない。これらを授業中にも説明していくので学習してほしい						
履修登録者数	75名	定期試験 受験者数	71名	合格者数	71名	合格率	100%